

研究室紹介

和歌山県立医科大学保健看護学部 内海研究室

保健看護学部の概要

保健看護学部は、平成9年に和歌山県立医科大学看護短期大学部として開学し、この短期大学を母体として平成16年4月に保健看護学部へ改組されました。紀三井寺に建てられている医学部とは徒歩で20分ほど離れた三葛の地に建てられていますので、オープンキャンパスや入学試験などの際に、医学部の方に間違っていかれる方がいまだにおられます。現在の保健看護学部は学部生1学年80名、大学院保健看護学研究科（修業年限2年）は24名、助産学専攻科（修業年限1年）は10名、全教職員48名から成るこぢんまりとした学部です。「資質の高い人材育成」を教育理念に掲げ、教育・保健・医療・福祉の連携を強め、総合的な健康づくりに貢献することを目指している教育・研究機関です。

小児保健・小児看護ゼミ（内海研究室）

（学部生）保健看護学部では、3年生後期より学部生4～5名が各研究室に割り当てられ、研究活動が始まります。小児保健や小児看護に関心を持つ学生が集まり、研究テーマを決めたり文献を読み解いたりとにぎやかになり4年次の12月の研究発表会まで続きます。最近の研究テーマとしては、「小学生の手洗い指導の学年別教育効果について」、「保健室登校をしてくる子供たちに対する養護教諭の役割」「集団にとけ込みにくい子どもの自主性、対人関係などに変化をもたらす要因について」等があります。これらは学生が小学校に出かけていき、先生方や子どもたちと関わりたいという思いの中ですすめられた研究です。今年度も小学校で調理実習を実施してきました。

（大学院）大学院保健看護学研究科は、昨年度初めて2人が修士課程を修了していきました。2人

とも仕事をしながらでしたが、現状を変えたいという強い意志のある2人でした。1人は小児の在宅医療について親の負担を軽減させたいという思いから研究に取り組み、現在は小児・障害者を中心とした訪問看護を某センター内に立ち上げたようです。もう1人は入院してくる子どもとその家族の不安を軽減することを目指し研究に取り組み、現在は医師や看護師と協同して実践方法を検討しています。今年度には1名が修了する予定です。

最近の活動

武田真太郎先生・宮井信行先生と共に、和歌山市内の某中学校で希望者対象に3年前より、「若年者生活習慣病予防健診」に取り組んでいます。校長先生や養護教諭の方の「健康に関心を持たせたい」「保護者にも子どもの生活について考えてほしい」との思いもあり実施しています。毎年約50名の生徒が希望します。健診結果をもとに食事・睡眠・運動などについての指導・相談などを養護教諭の先生が担当してくれています。今年度は中学校2校で生活習慣病予防健診が実施できました。



（学部ゼミ生 学会発表前日の食事会風景）

驚きニュース

先日、日本語が堪能な京都大学の教授とお話をする機会があり、「アメリカでは州により違うが、小学校の先生が、授業中に落ち着きのない子や歩きまわる子に対して、安定剤などの薬を投与している。これにより製薬会社の収益が上がっている。日本は大丈夫ですか？」と・・

（文責 内海みよ子）